

The Japan Society for Intercultural Studies

日本国際文化学会 ニューズレター

第10号 2006年10月1日発行

編集・発行

日本国際文化学会事務局

〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田学舎 松井賢一研究室

TEL/FAX 077-543-7866

<http://www.world.ryukoku.ac.jp/~wwjicsm/>

第5回全国大会東北大学で開催

第5回全国大会は、2006年7月15日(土)・16日(日)東北大学川内北キャンパスで開催されました。

シンポジウムでは、「二十一世紀・グローバル時代の宗教－民族・国家・非暴力」が取りあげられました。この内容については、「インターカルチュラル」第5号に掲載する予定です。

共通論題では、「次世代に残すアジアの文化と技術」、「グローバルシティズンシップと文化の諸問題」、「『文化』は平等か?」、「多文化間対話の技法について検討する」、「アジア・太平洋地区における言語の多様性と今後の展望」、「国際交流の担い手としての若者」、「住生活の文化－ブルーノ・タウトの再評価」、「モダニティーの拡大とナショナリズム」の8つのテーマが取りあげられました。この中から「国際交流の担い手としての若者」については、概要が同じく「インターカルチュラル」第5号に掲載される予定です。



自由論題は、14の分科会に分かれ、54本の報告が発表され、質疑応答がなされました。

また「フォーラム」では、前回国際文化学部卒業生の就職の問題が取りあげられましたが、今回は、国際文化研究科大学院生の就職の問題が議論されました。

第6回 全国大会の お知らせ

日本国際文化学会第6回全国大会を下記要領で開催致します。

ご参加頂きますようお願い申し上げます。

○日 時：2007年7月14日(土)、15日(日)

○場 所：名桜大学（沖縄）

○連絡先：〒905-8585 沖縄県名護市為又1220

名桜大学国際学部 仲地 清

Tel. 0980-51-1100 Fax. 0980-54-0077

mail : knaka@ics.meio-u.ac.jp

2007、2008年度役員決定

日本国際文化学会第5回全国大会2日目(2006年7月16日(日))に行われました第5回会員総会において、2007、2008年度の役員が決定、承認されました。なお、新たに、顧問をおくことも決定されました。

会長に熊田泰章氏、副会長に、木下資一氏、寺田元一氏が選出されました。また、平野健一郎氏、小林哲也氏が顧問に選出されました。

新役員の顔ぶれは以下の通りです。

役 職	氏 名	所 属
顧 問	小 林 哲 也	京都大学 名誉教授
顧 問	平 野 健一郎	早稲田大学 政治経済学術院
常任理事 会長	熊 田 泰 章	法政大学 国際文化学部
常任理事 副会長	木 下 資 一	神戸大学 国際文化学部
常任理事 副会長	寺 田 元 一	名古屋市立大学 人文社会学部 国際文化学科
常任理事	浅 川 照 夫	東北大学 国際文化研究科
常任理事	植 野 雄 司	プール学院大学 国際文化学部
常任理事	小 川 忠	独立行政法人 国際交流基金
常任理事	川 村 陶 子	成蹊大学 文学部 国際文化学科
常任理事	白 石 さ や	東京大学 大学院 教育学研究科
常任理事	鳥 飼 玖美子	立教大学 大学院 異文化コミュニケーション研究科
常任理事	松 井 賢 一	龍谷大学 国際文化学部
常任理事	松 居 竜 五	龍谷大学 国際文化学部
常任理事	若 林 一 平	文教大学 国際学部
理 事	相 原 次 男	山口県立大学 国際文化学部
理 事	池 上 裕 子	成蹊大学 文学部 国際文化学科
理 事	井 原 聰	東北大学 大学院 国際文化研究科
理 事	岡 眞理子	パリ日本文化会館
理 事	岡 崎 淑 子	聖心女子大学 歴史社会学科
理 事	川 端 香男里	川村学園女子大学 人間文化学部
理 事	川 村 湊	法政大学 国際文化学部
理 事	合 田 濤	神戸大学 国際文化学部
理 事	小 林 公 司	北海道東海大学 国際文化学部
理 事	須 藤 健 一	神戸大学 国際文化学部
理 事	瀬名波 榮 喜	琉球大学・名城大学 名誉教授
理 事	立 本 成 文	中部大学 国際人間学研究科
理 事	田 村 栄 子	佐賀大学 文化教育学部 国際文化課程欧米文化講座
理 事	デニル プシュパール	東北大学 大学院 国際文化研究科
理 事	都 丸 潤 子	上智大学 外国語学部
理 事	長 崎 暢 子	龍谷大学 国際文化学部
理 事	安 野 早 己	山口県立大学 国際文化学部
理 事	湯 浅 英 男	神戸大学 国際文化学部 コミュニケーション学科
監 査 役	小矢野 哲 夫	大阪外国語大学 外国語学部 国際文化学科
監 査 役	延 原 時 行	敬和学園大学 人文学部 国際文化学科
幹 事	カロスマリアレイトス	龍谷大学 国際文化学部
幹 事	桐 谷 多恵子	法政大学 国際文化研究科 博士課程
幹 事	藤 卷 光 浩	静岡県立大学 国際関係学部

第9回研究会の報告

2006年5月20日(土)13:00~17:00 佐賀大学教養教育機構・会議室にて第9回研究会が開かれました。今回のコメンテーターは川村陶子氏(成蹊大学)と絲林誉史氏(文化女子大学)で、以下の要約は田村栄子氏(佐賀大学)によるものです。

『ヨーロッパ文化と〈日本〉 —モデルネの国際文化学』 を読む

(田村栄子編、昭和堂、2006年4月刊)

田村 栄子(佐賀大学)

日本国際文化学会第26回常任理事・幹事会において、会員の発案で会員の所属する機関などで日本国際文化学会研究会を開催出来ると決定されたが、そうした趣旨にそうと認定された最初の研究会を5月20日(土)13:00~17:00に佐賀大学において、開催させていただいた。通算第9回研究会である。

研究会の内容は、本年4月に発刊された『ヨーロッパ文化と〈日本〉—モデルネの国際文化学』(田村栄子編、昭和堂)の合評会である。本書は、行政法人化した国立大学のなかでは先駆的な試みとして、佐賀大学文化教育学部が実施した学長裁量経費に基

づく出版助成事業による「佐賀大学文化教育学部研究叢書I」として刊行されたものである。

文化教育学部に所属する、身体系、芸術系、社会科学系、人文系の専門分野をまったく異にする12人が、それまでの研究交流の積み重ねのうえに、モデルネ(一九/二〇世紀転換期に現出した現代的なるもの)をキーワードにして、一書を編んだ。三部構成がとられ、第一部「モデルネの開花と展開」においてはカラヴァッジオ、アイルランド独立蜂起、ドイツ青年運動などが近代化と近代批判の交錯のなかで語られ、第二部「隣接性のモデルネ」では東西の境界を越えて広がるモデルネの諸相がマーラー、身体諸技法などを題材に展開され、第三部「モデルネとナショナリズム」では日本やインドネシアにおける近代国民国家の形成・拡大に伴う葛藤・屈折・差別・抑圧の諸様相が論じられている。

こうした本書の合評会として設営された研究会においては、コメンテーターとして川村陶子氏(成蹊大学、国際関係論〈国際文化交流〉/現代ドイツ・ヨーロッパ研究、本学会幹事)と絲林誉史氏(文化



女子大学、メディア人類学/人種・エスニシテイおよびアジア多文化社会研究)にお出でいただいた。お二人の啓発的なコメントを受けて、執筆者と参加者を交えて、質疑応答、意見交流が活発に展開された。

佐賀大学学長(本書への関心から)、文化教育学部長、本学名誉教授を含む学内外の研究者、市民(公開講座参加者を含む)、大学院生・学生あわせて28人の参加者をえた。コメンテーター・執筆者を含めると総勢37人が、それぞれの読後感と研究・体験をふまえて交流した。80歳の方が語って下さった「天皇陛下のために」戦争に行ったという深い悔恨のお話は、

国際文化の今日的課題の重要な一点を突いたものであり、学生は国際文化を学ぶ意義と楽しさを語ってくれた。研究と教育、「学」と「生」、大学と社会をつなぐことを期待して編まれた本書にふさわしい会合であった。また川村陶子氏の適切なお発言により、インターカルチュラルをめぐる国際文化学と日本国際文化学会の広報の場としても有意義なものとなった。夜の懇親会においてはさらに深い議論と親密な交流がなされた。日本国際文化学会第9回研究会として認定していただいたことに深く感謝している(研究会責任者：佐賀大学文化教育学部 田村栄子)。



日本国際文化学会では、毎年度学会誌『インターカルチュラル』を発行しております。現在の編集長は熊田泰章副会長(法政大学)です。バックナンバーをご入り用の方はアカデミア出版までお問い合わせください。(TEL.075-771-7055 FAX.075-771-9595)

